

甲斐路

「酉」という年に思うこと



(一社)山梨県サッカー協会審判委員会
委員長 中込 均

「酉」は干支の10番目。口の細い酒壺を表した文字で、収穫した作物から酒を抽出する意味や収穫できる状態であることから「実る」という意味もあるらしい。なぜ、これを「にわとり」としたかについては定かではないらしいが、様々なものが「実る年」になって欲しいと願ってやまない。

2017年は、審判界にとっても大事な転換の年になる。日本協会が直接携わってきた「レフェリーカレッジ」が発展的に解消し、それぞれの地域での「レフェリーアカデミー」へと継承される。関東では4名のアカデミー生が第一期生としてトップレフェリーを目指すことになる。県でも同様の育成システムを立ち上げるべく準備を進めなくてはならないが、そのためには審判指導者の育成にも取り組まなければならないと考えている。本年度は日本協会が補助してくれる「レフェリーキャラバン」事業で、「指導者の育成」に取り組む予定である。チュータリングやコーチングといったスキルをしっかりと身に付けた「教えられる指導者」を育成し、審判員の指導や評価を充実させたいと考えている。

2017年もう一つ充実させたいと考えているのは、「ユース審判員の育成」である。12月終わりに鹿児島で実施された「全日本少年大会」では、日大明誠高校の高柳君が準々決勝の主審と準決勝の第4の審判を担当した。全国の高校生の中でも上位の評価を受け、トーナメント上位での割り当てをもらったことは、2016年度から新たに設けられた「ユース部会」の取り組みの成果だと考えている。ユース審判員の育成は、審判技術の指導だけにとどまらない。まだ人間的に未成熟で発展途上の生徒たちを、サッカーや審判を通して育成するのは容易ではないが、未来を作るという面では「やりがい」も大きい。ぜひ関係の方々の理解と協力を得て、2016年度以上の活動ができるようにと考える。

2016年度、切実に思ったのは、上級審判員の少なさである。特に関東レベルのリーグや大会が重なった10月11月は、全ての試合に審判員を割り当てることができない事態にもなった。大会だけ山梨県に来ても運営できる「人」を育てないと大会は成立しない。審判委員会としても人づくりに力を入れていかなければと考えてはいるが、ぜひ種別等でしっかり自主運営できる基盤は作って行って欲しい。その中からさらに上級を目指す審判員が出てくることが、山梨県のサッカー全体のレベルを上げることにもつながっていくと信じている。

今年が、サッカーに携わる全ての人にとって「実り」の多い年になるよう祈念して、2017年の年頭のあいさつとしたい。

2016年 JFA都道府県審判トレセン報告

インストラクター部 広瀬 久

11月23日に、押原公園会議室においてJFAインストラクターによる審判トレセンが開催されました。

日時：2016年11月23日 9:00~16:30

場所：押原公園会議室

講師：鈴木武明 氏

受講者：審判指導者、審判員(ユース審判員含む) 20名

講義目的

- ・審判指導者の資質向上と審判員との情報共有

講義内容

- ・新競技規則について
- ・映像を利用した動きとポジショニングについて
- ・映像の中の事象についてのグループ討議
- ・ワークショップについて



今回の講習では、審判指導者と審判員との映像を使用したグループ討議の中で活発な意見交換ができました。また、いろいろなツールを使った指導法など、勉強になる講習会になりました。その中で、意見をまとめて発表するとき、指導者、審判員ともに、言葉で表現し説明を加えながら伝えることの難しさを感じました。

JFA女子審判トレセン 山梨研修会

指導育成女子部 栗林 真紀

2016年12月3日(土)に押原公園にてJFAより講師を招き、山梨県内で審判資格をもっている、主に女子委員会加盟チームを対象に行われました。

講師：浅井昭子 氏

参加者：山梨県審判委員会より

委員長 中込 均 氏

指導育成部長 飯島政明 氏 他、指導部

女子委員会加盟チームより

3級保持者1名 4級保持者77名

○講義

1. サッカー競技の精神
2. 新競技規則改定部分について



- ・第4条 競技者の用具、第12条 ファウルと不正行為（決定的な得点の機会の阻止、第8条 プレーの開始および再開（キックオフ）、第11条 オフサイド（再開場所）など

○プラクティカルトレーニング

- ・笛の吹き方、主審の動き
- ・副審のシグナル、走り方



○トレセンを終えて

今回は有資格者のみを対象として行いましたが、女子委員会の協力をいただき大変多くの方に参加いただきました。リーグがスタートする前に新競技規則を理解して試合に臨めるよう重点的に講義が行われました。またプラクティカルでは今回初めて笛を使用し、主審をする時に笛はいつ、どのように吹くか、試合中はどのような動きをしているのか、などを講義していただきました。「主審も副審も思っていたよりも運動量が多くてびっくりしました。笛の強弱によって選手に伝えたいことなどがあったり、吹き方にも意味があることを知りました。」といった感想を聞きました。参加者の多くは普段は競技者として活動しているため、審判をする機会も多くはありませんが今回のトレセンで学んだことを今後に活かしていただければ幸いです。

2級インストラクターに昇級して

インストラクター部 内藤 秀樹



あけましておめでとうございます。今年は日本代表のワールドカップ最終予選の年であります。本年もスタートし、県内でも数多くの大会が予定され、数多くの試合がおこなわれることと思います。競技者はもちろん、チーム関係者または役員の皆さま、そして審判員の多くの方々にとっても実りある一年でありますようお願いしております。

さて、私事ではありますが、昨年2級インストラクターの資格を取得させていただきました。審判の資格を取って20数年、審判委員会にお世話になって12年目になろうとしています。これまで多くの県内外の試合、または各研修会などに参加させていただき、多くの審判インストラクターの方々と出会い、様々な勉強をさせていただきました。「良いゲームには、良い審判がいる」と言われます。競技者や指導者が日々競技力の向上をはかられているように、私も一人でも多くの良い審判員を育てられるよう、審判指導者として日々勉強と努力を重ね、活動していきたいと思っております。

これまでご指導いただきました諸先輩方、そして今回受験させていただく機会を与えていただいた中込委員長はじめ、審判委員会の皆さまに感謝申し上げます。

2級審判員に昇級して

サッカー2級審判員 高柳 拓生



この度、サッカー2級昇級審査を受験し、昇級することができました。審査にあたっては中込委員長をはじめ多くの方々をサポートしていただきました。また昇級審査だけでなく様々な研修会に参加させていただきました。とても貴重な体験ができたことに感謝しています。研修会を通じて審判員としてだけでなく、人として成長することができました。全国のユース審判員とディスカッションしていく中で様々な考えを共有して多くのことを学びました。また選手たちの一生懸命なプレーを見て、改めてサッカーのすばらしさを実感しました。それと同時に審判員の責任の大きさも感じました。ある方に言われた「審判をやめるなら今だ」という言葉がとても印象に残っています。それほど審判をすることは難しく、覚悟がないとできないことだと強く感じました。

これからも一人の人間として成長し、より良い審判員になれるよう日々努力し1つ1つステップアップしていきたいと思っております。また審判員として選手や監督、試合を観ているすべての人と一緒にサッカーを楽しんでいきたいと思っております。これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

この度フットサル2級審判員へ昇級させて頂きました。まずはじめに、2級審判員への昇級にあたり、山梨県サッカー協会審判委員会の皆さま、山梨県フットサル委員会の皆さまに心より感謝申し上げます。自分の審判技術はほとんどゼロの状態からスタートしましたが、市村審判員はじめ多くの審判・チームの方々から学ばせていただきました。また、審判トレセンにも極力参加させて頂き、ディスカッションを通して様々なケースでの対応・判断についての知識を得られました。11月の昇級試験の指導については伊藤審判員より何度も模擬試験を行っていただき、フットサル競技規則のさらなる理解に努めました。フットサルはゲームスピードが速い特性を持つため、良いゲームで終わるためには試合展開に対応するための良いポジショニング、視野の確保、早い判断などが必要です。これからも2級審判員としての自覚と覚悟を持ち、その責任を全うし、周囲の方々の見本となれるよう、日々精進して参ります。そして、少しでも山梨県のフットサルの発展に貢献出来るよう、活動して参ります。今後とも、ご指導よろしくお願い致します。

地元開催となった、国体関東ブロック大会

審判委員会 輿石 純一

2016年度、サッカーの国体関東ブロック大会（ミ二国）が本県で開催されました。審判員として、山梨県の審判委員会より成年の部・少年の部合わせて4名の審判員が参加させていただきました。

ここでは、他のサッカーの試合と同様、サッカー競技規則にしたがって試合を円滑に進めていくことが我々審判員の役割です。その役割の中でも特に、真夏の炎天下での試合となったため、熱中症対策など、選手の健康面への配慮はいつも以上に重要でありました。30度を超す、蒸し暑い盆地特有の気候の中で、大きな事故もなく白熱した試合が繰り広げられました。審判員としても、充実感のある大会になりました。

また、「自分は、都県代表として戦っているんだ。」というプライドを持って試合に臨んでいる姿が印象的でした。多くの選手が、そのような気持ちを持って臨んでいるように感じました。所属チームでの試合とは違った雰囲気の中で戦っており、そのような試合に自分自身も関わることができたことは、大変うれしく思いました。

最後になりましたが、このような大きな大会に参加させていただき、貴重な経験を得ることができました。ありがとうございました。今後もますます審判技術の向上に努めるとともに、山梨県のサッカーが発展していくように力を尽くしていきたいと思っております。



2016年度関東地域トレセンを終えて

指導育成部 金刺 瑞樹

2016年4月から12月までの全8回に及ぶ関東地域審判トレセンのプログラムが終了しました。

このプログラムは全国地域で行われており、関東地域では審判員6名、インストラクター2名、JFAダイレクター2名、そしてコンタクトパーソンの計11名で構成されています。

毎月1泊2日の研修会ではフィジカルトレーニングやブラクティカルトレーニングを始め、実際の試合を用いた実践研修、その後映像を用いた分析反省を行います。ほかにも審判員によるプレゼンテーションや毎月異なる講師によるレクチャーなども並行して行われます。

この1年間に渡るトレセンでは、様々なカテゴリーの試合を担当し、多くの引き出しを作りました。また、審判と真摯に向き合う仲間との意見交換ではこれまでにない刺激を受けたこと、他人のレフェリングを観察・分析できたことなど、プラスの材料をたくさん得ることが出来ました。それと同時に、継続性をもって準備→チャレンジ→反省を繰り返し、映像での分析により客観的に自分の審判を見直せたことで、課題が明確になりました。ここで浮き彫りになった課題に対してしっかりアプローチし、改善していくために、日々の試合を大切にチャレンジしていきます。

たくさんのことを学んだ2016年でしたが、2017年は「学んだことを実践していく1年」と位置付け、審判という立場でサッカーに少しでも貢献できればと思っています。

最後になりますが、このトレセンに参加させていただくにあたり、審判委員会の方々には多大なサポートをしていただき、本当にありがとうございました。審判が出来ることへの感謝を忘れずに、今後も努力していきたいと思います。



3級審判員に昇級して

サッカー3級審判員 田口 詩緒



今回3級審判員にならせていただいたことをとても嬉しく思っています。私が審判員になろうと思ったのは、もともと審判に興味があり、大学のサッカー部監督を通して3級審判資格のお話を頂き、挑戦してみようと思ったのがきっかけでした。3級審判資格を取得し、初めて審判研修会に参加させていただきました。研修会では、3つの試合の審判をさせていただきました。今まで私の考えの中に審判員はチームだという考えはありませんでしたが、研修会に参加させていただき、審判をする中で、審判員はチームなのだという事を感じる事ができました。例えば、試合中のアイコンタクトであったり、信頼があつての判定など、私は初めて審判員の中の信頼関係に触れる事ができたと感じています。研修会のディスカッションでは、一つの試合の映像を見て、何通りもの立ち位置や動きがあることや、予測して動く事の大切さなどを学ぶことができ、とても勉強になりました。研修会に参加した事で自分の課題も見つかり、さらには審判がこんなにも「楽しい」ということを知ることができました。この経験をこれからの審判活動に生かしていける事、それもすべて山梨県審判委員会の皆様の支えがあつてのことだということを忘れずに、これから積極的に活動に取り組み上級審判員を目指していきたいと思います。まだまだ未熟者の私ですが、今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。

サッカー3級審判員 平野 衣純

審判を始めたきっかけは高校の時に始めたサッカーでした。ポジションがゴールキーパーだったこともあり審判をする機会が多く、大学時代に入ってからにはプレイヤーではなく審判活動を中心にしていました。しかし、大学を卒業すると様々な事情で5・6年間サッカーや審判活動に携わる事ができませんでした。東京から山梨に来て、知らない土地での生活の中で、ある方に「審判活動を再開してみても」とアドバイスを受けました。自分でも審判に戻りたいという気持ちもあり、昨年6月に4級の資格を取りました。そして、7月の4級トレセンに参加しようとしたところ、3級昇級トレセンへの参加を勧めていただきました。体力や競技規則についてかなり心配でしたが3級昇級試験を受験することができました。やはりブランクというものは大きく、実技試験ではファウル等は少なかったものの自分への課題が多く出た試合でした。無事に合格させていただきました嬉しい反面、色々と不安な気持ちもあります。



また3級に昇級して間もなく関東女子の研修会にも参加させていただきました。他県の審判員の方々との交流や座学での学び、実技では副審をさせていただくなど大変充実した研修会でした。これから3級審判員として活動していくにあたり、体力の向上や競技規則の理解、また向上心を忘れず、東京で学んだ技術等を生かしながら山梨でレベルアップを図っていきたいと思います。

2017 年度 審判新規取得講習会のお知らせ



Web 公開は 4/1 から

サッカー審判 新規取得

第 3 回	5/7 (日)	甲斐市双葉ふれあい文化館	受付 9:10~
第 4 回	6/4 (日)	甲斐市双葉ふれあい文化館	受付 9:10~
第 5 回	7/9 (日)	いちみや桃の里ふれあい文化館	受付 9:10~
第 6 回	8/6 (日)	いちみや桃の里ふれあい文化館	受付 9:10~

※審判トレーニングセンター (3級・4級) 毎月第2火曜 押原公園2階 19:00~

フットサル審判 新規取得

- ・第 1 回 5/27 (土) ・第 2 回 6/24 (土) ・第 3 回 7/22 (土)
- 押原公園 受付 13:00 ~

★申込み〆切は、講習会日から3週間前までとなりますのでご注意ください。

★開催日、場所は予定のため詳しくは JFA KICKOFF サイトからご確認をお願いします。

★審判資格は、1年に1度(2018年度は今年中)の更新が必要です。

★新年度の審判活動へ向けて、お早めに更新をお願いいたします。

★パスワードを忘れてしまった方は、ログイン画面のパスワード入力欄下にある【パスワードをお忘れの方はこちらから】をクリックしてパスワードの再設定をお願いします。

「JFA ID「ログイン不可/保有資格登録不可」問合せフォーム」<https://goo.gl/WGC04c> まで

〒409-3864 中巨摩郡昭和町押越 1500-1 押原公園内

一般社団法人山梨県サッカー協会 審判委員会

問い合わせ時間 (月~金 9:00~17:00)

TEL 055-267-8887